



「地名でみる太子橋1～3丁目」

—太子橋はその名の通り聖徳太子とゆかり深い土地である。

太子橋 1～3丁目、ここは旭区の北東部。

北は淀川に面し、東は守口市に接する住宅地域。1丁目には府営今市住宅、市営城北住宅、3丁目には府営橋寺住宅、淀川パークハウスがある。1丁目の南端を国道1号線、中央を阪神高速大阪守口線が東西に通る。

1、2丁目の境を主要地方道大阪内環状線が縦貫し、淀川に架かる豊里大橋が旭区と右岸の東淀川区を結ぶ。さてここに「橋寺」という地名が残されている。「橋寺」はもと淀川の北岸にあったが、淀川の大改修工事により南岸に移り集落の地形は大きく変わった。

地名は、かつて橋本寺という古刹があったことによるという（「大阪府全誌第3巻」より）。その歴史は古い。

橋寺村：江戸期～明治22年の村名

橋寺：明治22年(1889)～大正14年(1925)の豊里村の大字名

橋寺町：大正14年～昭和26年(1951)の東淀川区の町名

太子橋1～3丁目：昭和46年(1971)～現在にいたる町名



■橋寺廃寺の碑

府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから、橋寺廃寺と呼ばれている。

「橋寺村」をさかのぼれば「橋寺荘」として鎌倉期にみえる。

建保7年(1219)3月26日付の僧宗賢畠地売券に『謹辞 売買永作手畠新立券文事、合壺反者<但在余畠橋寺御庄内字野垣内地>』とあるのが初見(日本地名大辞典)。まことに古い地名である。

府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから橋寺廃寺と呼ばれている。橋寺廃寺は、奈良時代に行基(668～749)により建てられている。高瀬橋院もしくは橋本寺の跡ともいわれている。(財)大阪市文化財協会)

「太子橋はその名の通り聖徳太子とゆかり深い土地です。庄屋の田嶋家では、聖徳太子の命日の2月22日に太子講という太子をしのぶお祭りが行われ、人々の信仰を集めていました。このお祭りは、聖徳太子がこのあたりを訪れた時にお茶とよもぎ団子をふるまったことから始まったといえます。

今も田嶋家にはお祭りの時に用いた太子の絵伝や画像が残っています。」(財)大阪市文化財協会旭区郷土史料室展示解説) <福田>

橋寺廃寺

- 橋寺は、奈良時代の僧侶、行基(ぎょうき)によって建造。この歴史は、「行基年譜」から学者が正確であると判断。
- 行基は、道、堤防、ため池、堀、そして近畿地方で49の寺を造り、この橋寺はそのうちの1つ。
- 高瀬橋に近くに高瀬院という寺があり、地元では「橋本寺」と呼ぶようになり、略して橋寺となった。
- 寺があったという根拠は、布目のある瓦(奈良南都仏教の特徴)が発見されたことによる。その瓦にはススがあったため、焼け消失したと見られている。
- 行基は、当時砂州(島)をつなぐ高麗橋を天平7年(730年)に建設。
- 昭和34年に住吉中学校の生徒が偶然土器を発見。その際に発見されたものは、現在大阪市立歴史博物館に保管されている(一般非公開)。
- 大阪文化財埋蔵地区に指定されている(旭区に3箇所)。
- 土器→南北朝時代／瓦→奈良時代



■橋寺廃寺跡



■橋寺廃寺を説明サイン(大阪市教育委員会)

行基 (ぎょうき／ぎょうぎ)

- 堺出身の奈良時代の僧侶で、奈良の大仏(753年完成)などをつくった。
- 行基の先生である、道正(どうしょう)は、初めて火葬を行った人で、行基もその次に火葬された。